

参 考 資 料

	頁
参考資料 1－1	熊本県教育委員会第2期（平成26年度～平成30年度） くまもと「夢への架け橋」教育プラン
参考資料 1－2	熊本県教育委員会平成27年度重点政策
参考資料 1－3	熊本県教育委員会の要望書
参考資料 1－4	熊本市教育方針
参考資料 1－5	熊本市教育委員会の要望書
参考資料 2	大学院教育で養成する力量と5つの力と重点3領域との関係
参考資料 3	新専攻（教職大学院）のイメージ
参考資料 4	開講科目一覧と「共に学ぶ科目」、「経験に応じて学ぶ科目」
参考資料 5	教職大学院カリキュラム構想図
参考資料 6	授業担当教員
参考資料 7	教職大学院教員の学部、大学院担当科目一覧
参考資料 8	時間割
参考資料 9	各専任教員の時間割
参考資料 10	履修モデル
参考資料 11-1	アンケート結果
参考資料 11-2	教職大学院説明資料
参考資料 11-3	アンケート用紙
参考資料 1 2	熊本大学教職大学院の認証評価実施について
参考資料 1 3	「教育実践研究」の履修パターン
参考資料 1 4	「教育実践研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の年間スケジュール(例)
参考資料 1 5	委員会関係の全体像

（基本理念及び支える土台 イメージ図）

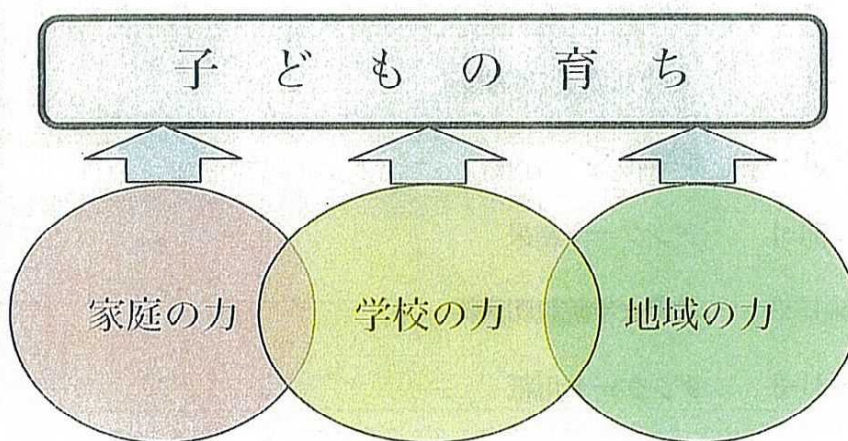
基本理念

郷土に誇りを持ち、
夢の実現を目指す熊本の人づくり

目指す姿

- ①家庭を中心として基本的な生活習慣や自立心を身に付けた、たくましく心豊かな子ども
- ②何よりも命を大切にする心を持ち、知・徳・体の調和がとれた子ども
- ③熊本の自然や伝統、文化を誇りに思い、国際的な視野を持って、未来を切り拓く人
- ④生涯を通じて学び、社会に主体的に参画し、夢の実現を目指す人

支える土台



計画の基本構想

今後5年間で重点的に取り組む事項 ～『夢を叶えるミッション』～

基本理念や目指す姿の実現に向け、課題の解決や本県教育への新たな要請に応えるため、今後5年間で重点的に取り組む事項として『夢を叶えるミッション』を定め、目標の達成に向けて『夢を叶える教育』を推進します。

(1) 子どもたちの夢をはぐくむ（幼児期～学校期）

① 家庭教育支援にしっかり取り組みます

【目標】「くまもと家庭教育支援条例」の認知率 21.5 % (H25) ⇒ 60 %

【関連施策】 基本的方向性 1 （取組 1）家庭の教育力の向上
基本的方向性 2 （取組 5）命を大切にする教育の充実
基本的方向性 9 （取組 27）学習機会の提供

② いじめのない学校をつくります

【目標】学校は楽しいと感じる児童生徒の割合
小学校 92.8 % 中学校 89.1 % 高等学校 88.1 % 特別支援学校 94.2 % ⇒ 向上

【関連施策】 基本的方向性 2 （取組 6）いじめ・不登校等への対応

③ 「熊本の心」を活用して豊かな心をはぐくみます

【目標】「熊本の心」を活用した道徳の時間を地域や保護者に公開した学校の割合
小学校 90 % ⇒ 100 % 中学校 82 % ⇒ 100 %

【関連施策】 基本的方向性 3 （取組 8）豊かな心をはぐくむ教育の充実
基本的方向性 5 （取組 13）ふるさとを愛する心の醸成

④ 障がいのある子どもの学びを支えます

【目標】高等学校において、学校が把握する発達障がいの診断を受けている生徒
についての個別的教育支援計画作成率 23.9 % ⇒ 60 %

【関連施策】 基本的方向性 4 （取組 11）特別支援教育の充実
（取組 12）県立特別支援学校の教育環境整備

⑤ 英語を話せる子どもを増やします

【目標】英語が「好き」「分かる」生徒の割合
「好き」 48.4 % 「分かる」 47.5 % ⇒ 向上

【関連施策】 基本的方向性 5 （取組 15）外国語教育、国際教育の充実

⑥ 貧困の連鎖を教育で断ち切ります

【目標】生活保護世帯の高等学校進学率 94.6 % ⇒ 98.9 %

【関連施策】 基本的方向性 7 （取組 21）貧困の連鎖を教育で断つ

(2) 子どもたちの夢を拓げる（主に高等学校～）

① 海外にチャレンジする若者を増やします

【目標】海外高校への留学者数

19人（H24） ⇒ 100人（H24からH27までの累計）

【関連施策】基本的方向性5 （取組15）外国語教育、国際教育の充実
（取組16）優れた才能や個性を伸ばす教育

② 進学や就職の夢を叶えます

【目標】大学等進学率

43.6% ⇒ 47%

県立高等学校における大学等進学希望者の進学率

80.6% ⇒ 83%

【関連施策】基本的方向性3（取組7）確かな学力の育成
基本的方向性5（取組14）キャリア教育の充実
（取組17）私立学校の振興（熊本時習館構想の推進）

(3) 子どもたちの夢を支える（教育環境の整備）

① スーパーティーチャーをつくります

【目標】スーパーティーチャー（指導教諭）の導入

【関連施策】基本的方向性6 （取組18）教職員の人材確保、人材育成

② 地域に開かれた学校をつくります

【目標】コミュニティ・スクールの数

24校 ⇒ 60校

学校を支援するボランティアの数

61,051人 ⇒ 76,000人

【関連施策】基本的方向性6 （取組20）地域に開かれた学校づくり

③ 学力向上につながる教育の情報化を推進します

【目標】ICTを活用して指導できる教員の割合

69.7% ⇒ 100%

【関連施策】基本的方向性7 （取組23）教育の情報化の推進

※ 各目標について、特に記載がない場合、現状値は平成24年度、目標値は平成30年度の数値です。

平成27年度重点施策

平成27年4月

1 グローバル人材を育成する

学校における英語教育の充実のため、小・中・高校において、中央研修修了者を中軸とした研修体系の充実を図るとともに、小・中・高校の連携による先駆的な取り組みを支援し、その成果を普及します。特に、小学校英語教育については、2020年度の教科化に備え、本県独自の英語音声教材「I CAN DO IT! Junior」を作成・配布し英語教育の充実を図ります。

また、視野を広げる機会を提供するため、米国の州立モンタナ大学や東京大学へ高校生を派遣する定員枠を大幅に増やすとともに、引き続き海外への修学旅行を促進します。

なお、人材育成の基盤である児童生徒の学力向上のため、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図る「徹底指導」と児童生徒が自ら考え問題解決に主体的に取り組む「能動型学習」とのめりはりをつけた熊本型授業の一層の充実を図るとともに、県立学校へのスーパーティーチャーの配置拡充、「地域未来塾」を実施する市町村への支援や「学力向上アドバイザー」の派遣などを行って、自ら考え主体的に行動する子供の育成を図ります。

さらに、こうした子供たちの郷土を誇りに思う心の涵養を図るため、地域の伝統や文化を理解し、誇りを持つ取り組みを積極的に進めます。

2 生きる力の基礎をはぐくむ

子供たちの規範意識や社会性を育成するため、平成30年度からの道徳の時間の教科化に先駆け、平成28年度から全ての小・中学校で「特別の教科 道徳」の趣旨・内容を踏まえた授業を実施できるよう、学識経験者等からなる検討会議を設置し、道徳教育用郷土資料「熊本の心」を活用した教材の開発や指導方法等の研究に取り組みます。

また、教育・子育ての出発点となる家庭の教育力を高めるため、話し合いを通じた親子の相互理解に基づく家庭でのルールづくりを推進するなど家庭教育を支援します。さらに、地域教育コーディネーターの育成など学校・家庭・地域の連携を推進する市町村の支援を拡充するとともに、「親の学び」プログラムの取組みを強化するため、幼稚園・保育所・高等学校にモデル校を指定します。

3 いじめや不登校などに的確に対応する

いじめや不登校への早期対応と解消に向けて、専門家等と連携した相談・支援体制を充実させるため、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置を拡充します。

また、いじめの未然防止のため、平成27年3月19日の熊本県いじめ防止対策審議会答申「ネット世代の子どもたちに対応したいじめの防止等の取組の在り方について」を踏まえ、教職員の資質向上や保護者・地域等との連携に努めます。さらに、重大事態等の万一の発生に備え、各学校の組織体制を整備し、研修の充実を図ります。

4 特別支援教育のニーズに応える

高等部への入学を希望する熊本市及び周辺の生徒を受け入れるため、東部新設支援学校（仮称）の整備を進めるとともに、山鹿分教室・氷川分教室・熊本支援学校など既存の学校施設の改修に取り組みます。

また、発達障がいのある児童生徒への支援を充実させるため、小・中学校の通常学級及び高等学校の教員を対象とした研修を開設します。

要 望 書

平成27年12月28日

熊本大学教育学研究科長 様

熊本県教育長 田崎 龍



熊本大学教育学研究科教職大学院カリキュラムへの要望について

熊本県の実教育現場における課題は複雑・多様化しており、それに伴い教員にも高い資質が求められてきております。このような中で熊本大学に教職大学院が設置されることにより、こうした諸課題に対応しうるより高度な専門性と豊かな人間性・社会性を備えた力量ある教員の養成に取り組んでいただけると期待しております。

については、以下の「①熊本県の実教育課題」に対応できる②の能力を兼ね備えた教員を養成するため、③の教職大学院のカリキュラムに必要な科目を組み入れていただくよう検討をお願いします。

① 熊本県の実教育課題

- ・教職員一人一人の基本的資質と専門性の向上
- ・家庭や地域と連携した、地域とともにある学校づくりの推進
- ・児童生徒一人一人の教育的ニーズを踏まえた健全な心身の育成と学力の充実

② 教育課題に対応するために教員に必要な能力

- ・「特別の教科 道徳」の指導力を含めた道徳教育を推進するための指導力
- ・いじめや不登校、問題行動の未然防止に向けた実践的指導力
- ・「徹底指導」と「能動型学習」とのめりはりをつけた「熊本型授業」の指導力
- ・学力調査の分析による学力向上対策の指導力
- ・グローバル人材の育成に向けた、小中連携した英語教育の指導力
- ・地域とともにある学校づくりへの理解と学校運営のマネジメント力

③ 上記を踏まえた教職大学院のカリキュラムに必要な科目

- ・「豊かな心」の育成に向けた指導力を高める授業科目
- ・「確かな学力」の育成に向けた指導力を高める授業科目
- ・「地域とともにある学校づくり」に関する授業科目